



# 文化財 まちあるき マップ

## 片浜・今沢 編

旧東海道（片浜～今沢）周辺の文化財をめぐる



沼津藩領西榜示杭

「まちあるき」の際は、車に十分注意しましょう！



タカオさんとジッキー2号  
(高尾山古墳マスコットキャラクター)

沼津市教育委員会

### モデルコースA

～片浜・今沢を制覇したい人むけ～

歩行距離 6.8 km 所要時間 約 3.5 時間  
消費カロリー 337kcal



### モデルコースB

～早足で回りたい人むけ～

歩行距離 3 km 所要時間 約 1.5 時間  
消費カロリー 150kcal



カロリー計算 体重 60 kg ,80m/分

### 片浜・今沢地区の歴史年表

旧石器	約 37,000 年前
縄文	約 16,000 年前
弥生	千本浜の海岸が形成される 約 3,000 年前 ●西通北遺跡 ●西通遺跡 ●軒通遺跡 ●長条遺跡 ●伴名田遺跡 ●中溝遺跡 ●中通 A.B 遺跡 ●三本松遺跡
古墳	西暦 250 年頃 ●神明塚古墳 ●松長古墳群 ●叶遺跡 ●東畑毛遺跡
飛鳥	
奈良	710 年
平安	●祥雲寺 ●金剛寺
鎌倉	1185 年
室町 (戦国)	●清玄寺
安土	
桃山	●三島神社 ●諏訪神社
江戸	1600 年 ●栄昌寺 ●旧東海道 ●一里塚跡碑 ●西間門八幡宮 ●神明宮 ●蓮窓寺 ●吉祥院 ●正覚寺 ●松長陣屋 ●沼津藩領西榜示杭 ●伊勢神明宮 ●西山神社
明治	1868 年 ●修成舎・竹陰舎 (片浜小学校) ●東海道線 ●片浜村
大正	●九尺ミチ
昭和	●松長シミヂ ●千本街道 ●沼津市と合併 1945 年 ●片浜中学校 ●平和塔 ●今沢小学校 ●今沢中学校 ●片浜駅
平成	●片浜地区センター ●今沢地区センター
令和	2026 年

### ⑥③ 一里塚跡碑 (松長)



一里塚は慶長9年(1604)、江戸幕府が日本橋を基点として一里(約4km)ごとに設けた里程標で、主要な街道の両側に塚を築き、榎や松を植えたものです。片浜の一里塚は、江戸から31番目の一里塚で、かつては大諏訪村と松長村との境で、東海道の南北両側にありました。南側の塚は大諏訪地内で松と榎が、北側の塚は松長地内で、榎が植えられていました。

### ⑦④ 神明塚古墳 市指定史跡 (松長)



この古墳は市内に3基残っている前方後円墳の一つです。全長約54メートルで、後円部に神明宮があることから神明塚古墳と呼ばれています。周囲には周溝(堀)がめぐらされていますが、大半が埋没しています。発掘調査により出土した土器などから、古墳時代前期中葉～後葉(3世紀後半)にかけて造営された古墳であることが判明しました。

文化財まちあるきマップ 片浜・今沢編「旧東海道(片浜～今沢)周辺の文化財をめぐる」  
2026年3月発行 発行・編集:沼津市教育委員会事務局文化振興課(沼津市文化財センター)

### ①① 祥雲寺 (今沢)

承和3年(836)創立といわれ、慈覚大師作の今沢薬師如来と東司の神(トイレの神)である烏枢沙摩明王を祀っています。かつては巨海寺という名であったと伝えられています。寛文10年(1670)に再建された際に寺号を改め、祥雲寺と称しました。境内には樹齢400年を超える松や、江戸時代から明治時代にかけて静岡県東部地域で念仏布教を行った唯念の名号塔などがあります。



### ②② 蓮窓寺 (松長)

寛文2年(1662)、下河原にある妙海寺20世修善院日根上人による開創です。本堂には本尊である輪円具足大曼荼羅や釈迦牟尼仏などの諸像が祀られています。境内墓地にある平和塔は、昭和26年(1951)に松長の住民の有志により建立されたものです。かつての山門は付近にあった松長陣屋の裏門を移築したものでしたが、老朽化により現在は新しいものに建て替えられました。



### ③③ 正覚寺 (小諏訪)

元禄2年(1689)、原町にある徳源寺第9世方室玄策禅師を開山に迎え、徳源寺の末寺「自覚庵」として創建されました。昭和46年(1971)の本堂再建に伴い、「普門山 正覚寺」と寺号を改めています。境内には、水子地藏や水子地藏御和歌、天保8年(1837)に流行った病から人々を救ったという白衣観世音菩薩などがあります。



### ④④ 沼津藩領西榜示杭 (西間門)

榜示とは支配関係者が杭または石などによって、領域や領田の表示としたものを意味すると考えられ、境界のしるしに立てた杭を榜示杭と呼んでいます。この榜示杭は安永7年(1778)、沼津藩主となった水野出羽守忠友によって建てられたものです。当初、西は大諏訪村と松長村との境に榜示杭が建てられました。しかし、西の藩領域を示す榜示杭は、その後沼津領の変移により東に移動して小諏訪村と西間門村の村境に移りました。現在下半分が欠損していますが、もとは「従是東沼津領」であったと考えられます。沼津市大岡(下右田)の榜示杭「従是西沼津領」に対応しています。

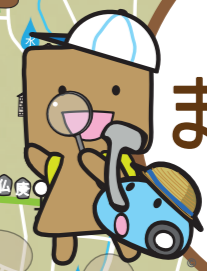
### ⑤⑤ 松長古墳群 (写真は山神社跡地) (小諏訪)

松長古墳群は、今沢の三島神社付近を西端、小諏訪の西通付近を東端とする東西約1.8kmを分布範囲とする沼津市域を代表する古墳の群集地域です。開発が進んだ海岸沿いに分布しているため全体的に古墳の残存状況が悪いのですが、右写真の円墳は東西方向に良好な墳丘が残存しています。現在の山神社跡地の下も古墳で、分布調査では墳丘から土師器片が発見されました。



# 文化財 片浜 今沢編

## まちあるき マップ



- 前方後円墳
- 円墳
- 神社・祠
- 寺院
- 石碑・石造物
- 水源・水場
- 石蔵
- ぬまづの宝 100 選
- 跡地
- 遺跡
- 旧東海道

0 200m 400m

**松長陣屋跡**  
宝永3年(1706)、松長陣屋は初代松長藩藩主大久保教寛によって築かれました。明治維新の際に廃業され、土地は民間に払い下げられました。

### 石造物ガイド

- 石仏・石神** 仏様が彫られた石造物の総称。地藏様や賽の神、様々な種類があります。
- 馬頭観音塔** 馬頭観音は頭に馬に乗せた観音様。庶民の間で馬の健康や死んだ馬の冥福を祈るため江戸時代に多く建てられました。
- 庚申塔** 庚申の日の夜、寝ている人から三尺(さんし)の虫が抜け出し、天帝にその人の罪を告げるとされます。三尺が抜け出ないよう一夜を眠らず過ごす「庚申講」を行う人々が建てた石造物です。
- 巡拝塔** 巡拝塔とは、巡礼者が旅の安全を祈願して建立した塔のことです。巡礼の達成を記念して建立されることもあります。沼津市では、江戸時代から『駿河伊豆両国横道』などの観音霊場巡りが盛んでした。
- 甲子塔** 甲子の日の夜、人々が集まって大黒天を祀り、夜遅くまで雑談をする行事を「甲子待」といいます。甲子講の人々は、「甲子塔」「子待塔」「大黒天」の文字を刻んだ石塔を建てました。
- 石造物** 上記以外の石碑・記念碑・供養塔など

**千本松原**  
狩野川河口から田子の浦にかけて続いています。松の常緑と富士山、駿河湾越しに沈む夕陽が美しい景勝地。日本の白砂青松 100 選の一つ。



**甲州街道**  
沼津から吉原まで伸びていた砂丘上の道。戦国武将、武田氏がこの道を通って甲斐に塩を運んだといわれますが、正確な経路は分かっていません。昭和15年(1940)ごろから拡幅され、現在の千本街道が開かれました。

**金剛寺開祖文覚上人と金女郎狐の縁**  
平安時代後期、金色の母狐が子狐の供養を文覚上人に依頼し、「子ども思いの大した狐」と評判になり、境内に狐を祀る稲荷神社が建てられました。



<b>モデルコースA</b>	片浜駅・5分	① 祥雲寺・14分	② 蓮窓寺・21分	③ 正覚寺・10分	④ 沼津藩領西榜示杭・14分	⑤ 松長古墳群(山神社跡地)・13分	⑥ 一里塚跡碑・10分	⑦ 神明塚古墳・5分	片浜駅
<b>モデルコースB</b>	片浜駅・5分	① 祥雲寺・14分	② 蓮窓寺・7分	③ 一里塚跡碑・10分	④ 神明塚古墳・5分	片浜駅			